



薪ストーブ故のぬくもりと楽しみ

真冬に入って寒さは厳しい。日中、日が照って気温が上昇しても、陽が落ちると冷え込みは急だ。冬は暖房が欠かせず、わが家では以前から薪ストーブを利用してきた。ストーブといえば鋳型の中で薪を燃やして熱を発生させ、その際に出る煙を煙突から排出するのが基本的な仕組みだ。しかしながら、三年ほど前に新しいものに入れ替えてみて、この世界でも技術革新は著しく、まったく別ものと言ってもいいほどに構造的に変化してしまっていることに驚かされた▼薪を燃やして燃焼することには変わりはないが、ここで発生した煙はストーブに内張りして設けられた部屋であらためて燃やされる。すなわち薪を燃やす一次燃焼に続いて、そこから発生する煙を再度燃やす二次燃焼へと移行し、この二次燃焼によつて一次燃焼だけでは得られない高温の熱を発生することによつて、燃焼効率は格段に上昇している。またこれにより煙はほとんど排出されないが、煙突の筒は二重にされ断熱が施されることによつて、これまでのような煙突からの熱の放射はストップされる。さらに外気で煙突が冷やされることがないため、空気の循環もスムーズで燃焼が容易となる▼ストーブ本体も煙突もがっちりしたものとなり、それだけ購入負担が大きくなる。しかしながらストーブのまわりに家族が集まって、揺れながら燃える炎を見ながら話をしていると何とも豊かな気持ちにさせられる。薪ストーブは贅沢と言えなくもないが、リーズナブルに他の暖房では代えがたい楽しみをもたらすことも確かだ。

(土着菌)